

平成 27 年 6 月 1 日	病害虫発生予報 6 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
--------------------	-------------------------------	------------------------

平成 27 年度茨城県農薬危害防止運動期間が始まります (6/15~9/14)
 ~薬剤散布時には周辺作物等へ飛散しないよう十分注意しましょう~

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稻：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）、ニカメイガ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ナシ：黒星病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【防除所レポート】 ：ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・	2
半促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・	3
夏ネギ：ネギアザミウマ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
【その他の病害虫】 ・・・・・・・・・・・・・・・・	4
水稻，ナシ，ブドウ，果樹共通，半促成ピーマン，夏ネギ，共通害虫	
水稻いもち病の防除について・・・・・・・・・・・・・・・・	5
施設野菜の栽培終了後の管理について・・・・・・・・	5
【防除所レポート】	
コムギなまぐさ黒穂病とその対策・・・・・・・・	6
キウイフルーツかいよう病（Psa3 系統）について・・・・・・・・	7
II. 今月の気象予報	9

本文に記載されている薬剤は平成 27 年 5 月 27 日現在のものです。
 最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445
 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
 ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/byobo/bojo/>
 フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	多い	県西地域, 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、水戸市の小麦圃場におけるヒメトビウンカ幼虫の5齢化率^{*}は平年より高く（本年値 23.9%，平年値 4.1%）、ヒメトビウンカの成育は平年より早い。

※5齢化率=5齢幼虫/幼虫数×100

- ② 3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、県西地域の6地点中5地点で、県南地域の2地点中1地点で10%以上の高い値である。

（平成27年3月25日発表 病害虫発生予察注意報第4号参照）

[防除上注意すべき事項]

- ① 昨年、本病の発生が認められた地域で、本年、ウンカ類に登録のある薬剤で育苗箱施薬を行わなかった水田では、6月下旬にヒメトビウンカの防除を行う。

2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い～早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺時期は龍ヶ崎市、筑西市で平年より早く、水戸市で平年よりやや早い。また、総誘殺数は水戸市、筑西市で平年よりやや多く、龍ヶ崎市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本虫の発生は、局地的に増加している。近年発生が目立つ地域では第一世代幼虫を対象に薬剤防除を6月上旬～中旬に実施する。

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在, 果実における発病率(本年値 0.63%, 平年値 0.25%), 発生地点率(本年値 58%, 平年値 25%)はともに平年より高い。
- ② 5月下旬現在, 葉における発病率は平年並(本年値 0.23%, 平年値 0.23%), 発生地点率は平年より高い(本年値 42%, 平年値 19%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため, 見つけ次第除去して土中深く埋める等, 適切に処分する。
- ② 平成 27 年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に, 散布間隔が 10 日以上空かないように防除を実施する。
- ③ 薬剤は, 10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等, 薬液のかかりにくい部分に対しては, 手散布等により補正散布を行う。

(平成 27 年 5 月 28 日発表 病害虫発生予察注意報第 1 号参照)

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は, 第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数がピークに達した日の 7～9 日後である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は, 越冬世代成虫の誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市, 土浦市, 筑西市(旧下館市)については, 今後, 病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
茨城町	6月17日	～	6月20日
笠間市(旧友部町)	6月20日	～	6月26日
笠間市(旧岩間町)	6月16日	～	6月19日
小美玉市	6月21日	～	6月26日
石岡市	6月17日	～	6月22日
かすみがうら市	6月14日	～	6月19日
土浦市	6月12日	～	6月16日
筑西市(旧下館市)	6月12日	～	6月16日
筑西市(旧関城町)	6月14日	～	6月18日
下妻市	6月14日	～	6月18日

1) 予測した第一世代成虫の誘殺ピークの 7～9 日後とした(6月1日現在)。

半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、寄生花率は平年よりやや高い(本年値 85.0%，平年値 51.1%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、黄化えそ病などの病原ウイルスを媒介するので、防除を徹底する。
② 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる系統(IRAC コード)の薬剤を用いてローテーション散布する。
③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度^{*}(本年値 46.6，平年値 20.4)，芯葉の被害株率(本年値 99.5%，平年値 45.8%)ともに平年より高い。
② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

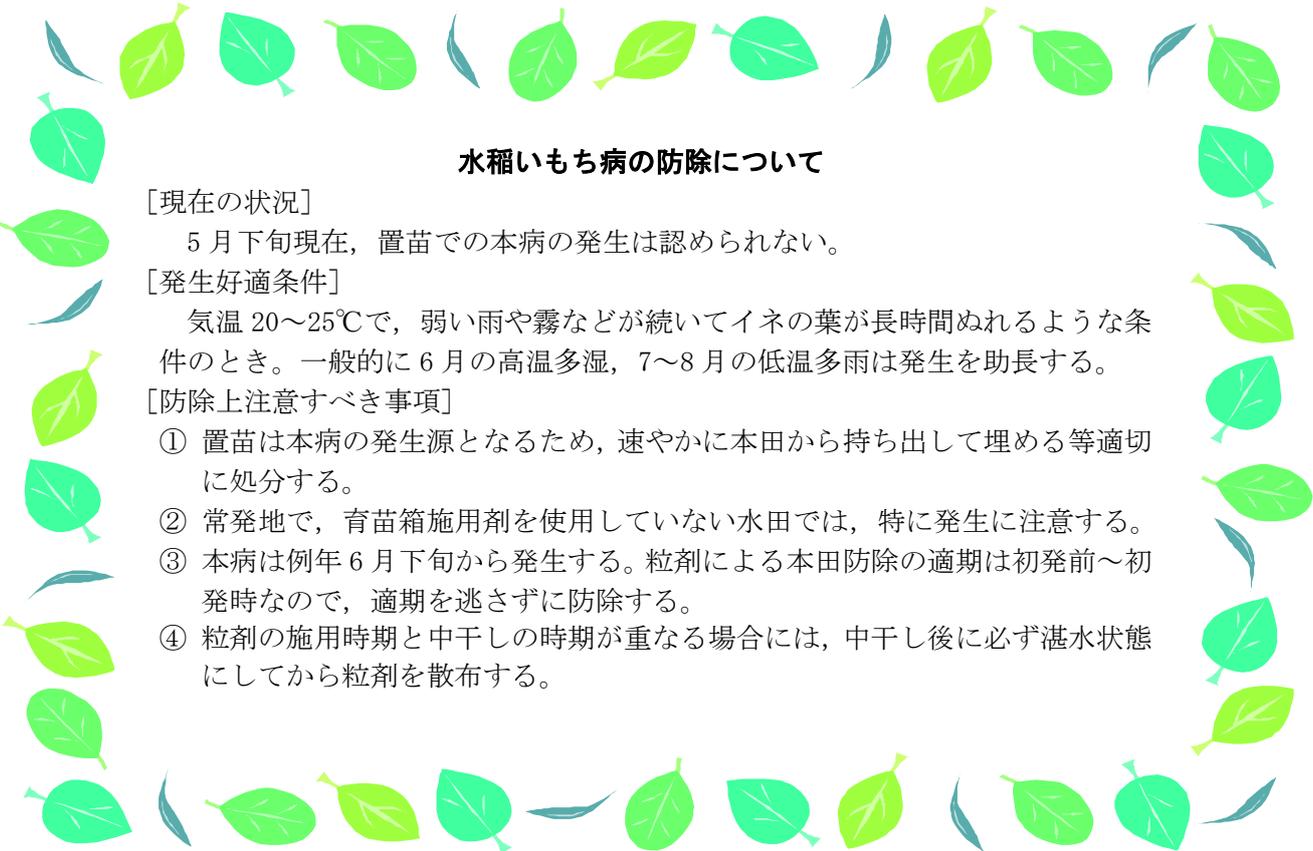
^{*}被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
② 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く, 食害が目立つ場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量: 平年並 ～やや多い	5月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。イネの初期生育が遅い水田, 育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
ナシ	アブラムシ類	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
	ナシヒメシクイ	発生量: 平年並 ～やや少ない	5月下旬現在, 平年並～やや少ない発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
	べと病		
果樹共通	チャバネアオカメムシ	発生量: やや少ない ～少ない	5月下旬現在, 平年よりやや少ない～少ない発生である。
ピーマン 半促成	うどんこ病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
夏ネギ	さび病	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件ではない。
	べと病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。向こう1か月の降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件ではない。
共通害虫	オオタバコガ	発生量: やや多い	5月下旬現在, フェロモントラップへの誘殺数は水戸市, 笠間市, 龍ヶ崎市, 筑西市で平年よりやや多く, 土浦市で平年並の発生である。



水稲いもち病の防除について

[現在の状況]

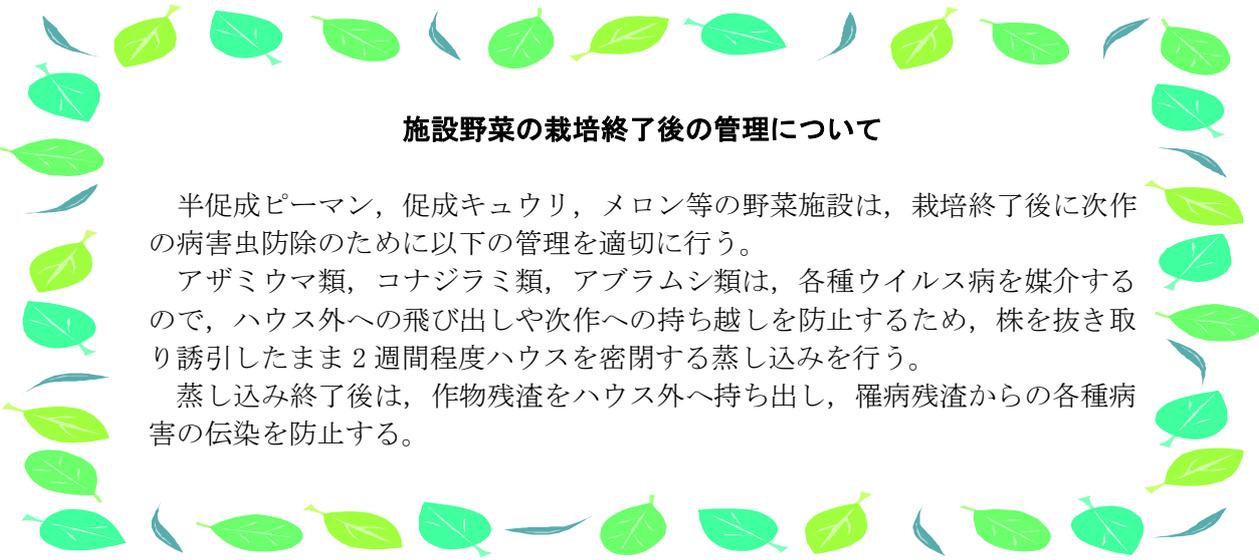
5月下旬現在、置苗での本病の発生は認められない。

[発生好適条件]

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。



施設野菜の栽培終了後の管理について

半促成ピーマン、促成キュウリ、メロン等の野菜施設は、栽培終了後に次作の病虫害防除のために以下の管理を適切に行う。

アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類は、各種ウイルス病を媒介するので、ハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、株を抜き取り誘引したまま2週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行う。

蒸し込み終了後は、作物残渣をハウス外へ持ち出し、罹病残渣からの各種病害の伝染を防止する。

コムギなまぐさ黒穂病とその対策

5月下旬現在、病虫害防除所の巡回調査において、コムギなまぐさ黒穂病の発病穂を確認しています。

発病穂は健全穂よりやや小さく、小穂が開き（写真 1）、子実の中には黒色の胞子が充満しています（写真 2）。また、子実を押しつぶすとなまぐさい臭いがします。本病は子実内部の黒い胞子が露出しにくく、草丈が低くなる傾向があるため、発病株を圃場の外側から確認することが困難です。一方で、発病粒を収穫、乾燥・調製すると、コンバインや乾燥機等の中で病原菌胞子の色や臭いが健全粒に移り、品質低下をもたらします。

そのため、収穫時には、発病粒が混入しないように、①圃場内を見回り、発病株を抜き取る、②発病が認められた圃場の収穫・乾燥作業は、他の圃場が終了してから行う、③作業後はコンバインや乾燥施設等の清掃を徹底する、等の対策を行いましょう。

【次作の対策】

- ・一度発病すると防除が困難となるため、必ず種子を更新し、有効薬剤(表)を用いて種子消毒を行う。
- ・こぼれ種子が圃場に残ると伝染源となることが多いので、畑圃場の場合は他作物を栽培し、こぼれ種子から発生した小麦の株を除去する。
- ・田畑転換できる圃場は水田にし、土壌中の胞子とこぼれ種子を死滅させる。

表 コムギなまぐさ黒穂病に登録のある主な種子消毒剤（平成 27 年 5 月 27 日現在）

薬剤名	成分名	系統名 ¹⁾	FRAC コード ²⁾	使用量および使用方法
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	ステロール生合成阻害 (DMI)	3	種子重量の 0.5%を種子粉衣
ベンレート T コート	チウラム	有機硫黄	M3	乾燥種子重量の 0.5%を種子粉衣
	ベノミル	ベンゾイミダゾール	1	

- 1) 農薬の化学構造や作用の特徴によって分類したもの。
- 2) 殺菌剤耐性菌対策委員会(FRAC)により、殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。系統名より細かく分類されている。なお、FRAC 作用機構分類については、農薬工業会ホームページの農薬情報局「農薬の作用機構分類」を参照。



写真 1 健全穂（左）と発病穂（右）



写真 2 子実の中に充満している黒色の胞子

キウイフルーツかいよう病 (Psa3 系統) について

<発生経緯>

キウイフルーツかいよう病は、細菌による病害の一種で、キウイフルーツの枝、新梢、葉及び花蕾に感染して発病します。

本病の病原菌 (*Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae*) には、病原性の異なるいくつかの系統があります。国内では、従来から発生が確認されている Psa1 系統に加え、平成 26 年 5 月に愛媛県で新系統の Psa3 系統の発生が確認されました。Psa3 系統は、緑色果実品種より黄色果実品種で被害が大きく、病勢が進行すると樹木が枯死する場合があります。本病は、愛媛県で確認されて以来、本県(平成 26 年 6 月 18 日発表 病害虫発生予察特殊報第 1 号)を含む 10 都県で発生が確認されています。

現在、国が定めた緊急全国調査実施要領に基づき、平成 27 年 4 月下旬～5 月頃にキウイフルーツ生産園地における発生調査を実施しています。発生が疑われる場合は周辺も含めて調査し、適宜サンプリングして検定を行い、病原菌の特定及びまん延防止の徹底を図っています。

<特徴>

病徴は 2 月以降から見られ、枝幹からの樹液の漏出 (写真 1～3)、葉の斑点 (写真 4)、新梢や枝の枯死 (写真 5) 等の症状を呈し、6 月頃には最も病徴が激しくなり、夏季の高温期になると病勢が停滞します。病徴を見分けやすい 6 月までに園内を観察し、本病の早期発見に努めましょう。

本病の詳細については、農林水産省ホームページ内「技術情報等 (キウイフルーツかいよう病の新系統 (Psa3 系統))」をご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/index.html>

<防除対策>

- ① 感染した枝や葉は二次伝染源となるため除去し、埋没等適切に処分する。また、病徴が著しい感染樹は伐採する。
- ② 剪定作業や風雨などにより傷口から感染するため、防風垣や防風ネットによる風対策を行い、剪定後は必ず傷口に癒合促進剤を塗布する。
- ③ 感染予防対策として、細菌性病害に効果の高い銅水和剤や抗生物質剤 (カスガマイシン、ストレプトマイシン等) を使用する。

本病が疑われる症状が確認された場合は、地域の県農林事務所経営・普及部門 (地域農業改良普及センター) または病害虫防除所へご連絡ください。

キウイフルーツかいよう病について（続き）



写真1 赤褐色の樹液の漏出



写真2 白色の樹液の漏出



写真3 赤褐色の樹液の漏出痕



写真4 葉の斑点症状



写真5 新梢の枯死

※写真は「Psa3 系統」の病徴。写真 3, 4 は静岡県病害虫防除所提供。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月30日から6月29日)

気象庁(5月28日発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 5月30日(土曜日)から6月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<2週目の予報> 6月6日(土曜日)から6月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 6月13日(土曜日)から6月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類^{*}(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成27年4月28日発表)の防除所レポート参照